



SISTER CITIES NEWS

姉妹・友好都市ニュース

International Friendship Association of Ibaraki

Vol.56 2011.5.14

茨木市国際親善城市協会



国際交流の集いでゲスト出演したJICA和太鼓クラブ with IRIS

CONTENTS — 目 次 —

● 第17回国際交流の集い	1
● 市民とJICA研修員とのふれあい交流、旅をあきらめない	2
● JICA研修員のホームビジット、受入家庭募集	3
● 特別寄稿青年海外協力隊活動報告、交流委員会紹介	4
● (社)茨木カンツリー倶楽部青少年国際交流助成事業基金、市からのお知らせ	5
● 英語俳句コンテスト、多文化共生プログラム	6
● 英語学習ツアー募集、We are friends!スタッフ等募集	7

第17回国際交流の集い

～茨木市国際親善都市協会設立30周年記念～

International Gathering 2011

2月20日(日)に茨木市市民会館ドリームホールで、「第17回国際交流の集い」を開催し、市民と外国人約270人が交流を図りました。今年も外国人による日本語スピーチ大会を始め、JICA 和太鼓クラブwith IRIS、箏・尺八の演奏、マレーシアの民族舞踊、フラメンコ、餅つき大会、協会活動団体紹介など、会場は活気に溢れていました。

今回 JICA 和太鼓クラブ with IRIS でエネルギー溢る演奏を披露してくれた中塚さんの声をお届けします!



▲箏・尺八の演奏



▲マレーシア舞踊(チンタサヤン)



▲フラメンコ(グルーボ・デ・エストレージャのみなさん)



▲JICA研修員も来場



▲茨木童子・ガンバボーイも来てくれました!



▲おいしいお餅ができました!

私達はJICA大阪で、日本の伝統文化である、和太鼓を教えています。私達は外国の方が慣れない土地で、日本の伝統文化に「気軽に触れて、楽しめる!」ということを通して活動しています。太鼓を通じてたくさんの方と繋がる、そして何より、日本という土地で心から楽しむ、というこの場を私は大事にすべきだと考えています。先日の国際交流会では外国の方が5人参加してくれました。みんな日本語で一生懸命、「あよいしょー!」という掛け声とともに、力強く太鼓をたたいていました。これからも、たくさんの方の海外の人たちと一緒に思いっきり楽しみたいと思います!



▲JICA和太鼓クラブwith IRIS

日本語スピーチ大会で発表されたスピーチをご紹介します



「平和になったスリランカ」 池本ニルミニ (スリランカ)

スリランカは、1505年から3つのヨーロッパの国の植民地になりました。ポルトガル、オランダ、イギリスです。イギリス支配から独立したのは、1948年でした。2011年2月の4日に、63回目の独立記念日を祝いました。

独立当時のスリランカでは、シンハラ人とタミル人との対立があり、シンハラ人の政府によるタミル人への弾圧がありました。そして、1975年にタミル人のテログループLTTE が結成されました。このタミル人のテログループは、国を2つに分けて独立しようとした。最初は一般のタミル人も LTTE に期待しましたが、やがて悲惨なテロ活動が活発化するにつれて、LTTE を支持しなくなりました。スリランカでは、1978年から昨年5月19日まで、32年にわたり内戦があり、LTTE というテロリストグループがテロ活動を繰り返してきました。

どの戦争でも、多くの犠牲者がでますね。スリランカでもこの32年間で、たくさんの方がなくなりました。国中ではたびたび爆弾が爆発して、中には村ごと破壊されたところもあります。人々は自由に外出もできませんでした。

今の政府は、国家予算を使って軍隊の力でテロを制圧しました。昨年5月19日、スリランカの長い内戦が終わりましたが、夫を亡くした女性や、息子を亡くした母親、父親を亡くした子供たちがたくさんいます。家族を失うのは悲惨なことです。

政府軍の大佐だった妹の夫も、6年前、39歳の若さでテロリストに暗殺されました。この内戦で、多くの人々が負傷し、障害者になりました。

この32年間、国の予算の多くがテロ対策に使われていましたが、これからはその必要がなくなったので、国民の生活に使われることになり、発展が期待されています。

私はスリランカが世界一美しい国だと思っています。ぜひ一度みなさんもスリランカに遊びにきてください。今日はどうもありがとうございました。

市民とJICA研修員との ふれあい交流

1月23日（日）に JICA 大阪研修員8人が市民と交流しました。午前には南市民体育館でニュースポーツや少林寺拳法を楽しみ、JICA 大阪での昼食後、国立民族学博物館を見学しました。ニュースポーツではスローイングピンゴとファミリーバドミントンに挑戦し、言葉の垣根を越えて大いに盛り上がりました。また、少林寺拳法では参加者全員が護身術を体験しました。今回、護身術をご指導くださった少林寺拳法連盟理事長で、本協会会員でもある中野幸一さんからのお便りをご紹介します！

JICA 交流感想文

茨木市少林寺拳法連盟 中野幸一

少林寺拳法の概要説明、演武披露の後、護身術としての少林寺拳法を体験頂きました。特に JICA 研修員及び市民参加者の人達が理解しやすいように、一人ひとりに有段者を割り当てました。

体験では、「目打ち」、これは当身の基本とも云われ、攻撃にも防御にもなる技法で、簡単に出来ることもあり、皆さん興味深々に気合を掛けながらやって頂きました。次に人の親指の必要性和重要性を技で説明していく頃になると、和やかな雰囲気の中にも参加者の真剣さが伝わってきます。今度は逆に親

指を殺すことで、相手にいろんな形で捕まれた場合、逃げる方法の手段として、有効に活用できる技法に、興味と驚きが入り交じり、「出来る?」、「本当に抜けた!」の半信半疑の思いで一生懸命やっている姿に指導して良かったと思いました。

少林寺拳法の技法を通じて、国際交流の一部でも担うことが出来た事を私自身も嬉しく思っています。今後もこのような機会があれば是非積極的に参加して行きたいと思います。



▲護身術に挑戦!



▲参加者の皆さん

本協会と姉妹都市活動室の永年にわたる会員の下瀬清一さんが新聞で紹介されました。



旅をあきらめない

大阪府高槻市の下瀬清一さん（78）は08年3月、脳こうそくで倒れた。グアム旅行に出かける2日前だった。それから約2年間リハビリを続け、ヘルパーの手を借りながら今年6月、念願のグアム旅行が実現した。「見知らぬ場所に行き現地の人との交流が旅の楽しみ」。今でも外国語を学ぶ下瀬さんの夢は広がる。

下瀬さんはかつて旅行会社に勤務していた。1970年の大阪万博以降は日本からも海外旅行に行く人が増え、添乗員として世界中を駆け巡った。退職後は1人で気ままに海外旅行を楽しんだ。08年に計画したグアム旅行は実に186回目の海外旅行。25年前に妻と一緒に訪れた地だ。「町の様子はどれくらい変化しているだろうか」。出発しようとした矢先に病魔が襲った。

それでも下瀬さんはあきらめなかった。毎日のリハビリで手足のしびれは回復。次の旅行に備え「名所を見て回るだけではその国を理解できない。現地の人とコミュニケーションを図りたい」と週に2、3回、英語と中国語を勉強した。最近では仏語も勉強している。（中略）

「目標は200回の海外旅行。南米や東欧にも行ってみたい」と好奇心旺盛だ。

（出典：毎日新聞 兵庫版 2010年10月29日掲載）

JICA 研修員の ホームビジット 受け入れ

JICA 大阪国際センターの英語圏アフリカ地域地方行政改革プログラムコースの研修員が1月30日（日）、市民の家庭でホームビジットを体験しました。

今回はホームビジットを体験したザンビアからの JICA 研修生、アンドリュー・アクフナ・ムウンガさんの交流の様子と、日本に関わる外国人の方へのメッセージをお届けします！



1 ホストファミリーと初対面!



2 車で京都の清水寺へ。



3 お寺の習わしに従って、お参り前に身を清めました。



4 お昼ごはん。みんなで温かいおそばを食べました!



5 清水寺の雰囲気 matches した、お茶屋さんの前で一枚!



6 その後村田家に戻り、晩ごはんをごちそうになりました! 楽しい時間をありがとう!!

RECOMMENDATION

To all Foreign Trainees, other Foreigners already in Japan and those that intend to Visit Japan, we strongly recommend that they should take the opportunity to visit a Japanese Family and not think twice about it. My advice to all is to go and experience a wonderful culture and share with what they have from their countries. You will also have gained friends for life. That's what David and Andrew have gained. We have been invited to visit the Murata's family anytime we are free. The moments we should have with this Family are priceless and we have gained wonderful friends apart from just the experience.

Thank you,

David and Andrew

✿ ホームステイ・ホームビジット受入登録家庭募集! ✿

茨木市国際親善都市協会では、留学生や JICA 研修生を受け入れてくださるホストファミリー家庭登録を募集しています。ご自宅で国際交流しませんか？

▼対象外国人：阪大留学生、JICA 研修員など▼内容：ホームステイは学生用に1室と1日朝・夕の2食（週末・休日は3食）の提供、ホームビジットは1日のみ宿泊なし▼とき：随時、登録家庭に募集情報を郵送▼対象者：協会会員▼申込：市国際親善都市協会事務局（市民活動推進課内 TEL:620-1604）へ登録用紙を提出

特別寄稿

青年海外協力隊活動報告

『チュニジアからアッサラーム アレイクム』

派遣国 ▶ チュニジア共和国

職種 ▶ 青少年活動

派遣期間 ▶ 2009年1月～2011年1月

氏名 ▶ 坂井 麻希

「アッサラーム アレイクム」「ラベース?」これはアラビア語、正確にはチュニジア語で「こんにちは」「元気?」という意味です。私はアラビア語を公用語にもつチュニジア(アフリカ北部)に青少年活動という分野で派遣されていました。活動内容は、障がい者施設に入り約60人の生徒を対象に体育を教え、地域と障がい者施設との繋がりをつくるというものでした。

まずは体育のある日には、体操服を着てくること、帽子をかぶってくること、水分補給できるものをもってくることを生徒に徹底させました。そして、実際に障がいのレベル、生徒自身の体育の目的に合わせて時間割を組み、体育をおこなっていきます。グループ形式を基本にしなが、集団での活動が難しい生徒については一対一というふうに、各生徒の状態に合わせたプログラムを組み、ねらいを設定しました。さあ活動開始!!生徒たちをみて、苦手なところを楽しみながら克服できるように心がけ、また得意な部分を伸ばすように取り組んでいきました。

しかし、チュニジアの教育は教師の言うことが出来てよし、結果を出してよしとされてきた環境でしたので、生徒たちは次のわたしの指示を正確にこなすことに必

死でした。もちろんより早く走り、より遠くに飛ぶことは大切です。しかし「今」出る結果だけではなく、そこまでの過程を大切に、のびのびと体を動かす楽しさを伝えようと思いました。そして、自身においては『生徒自身が出来た喜びを感じる』ために、サポートしていくことを大切にしました。

そのような活動をとおして、実際に障がい者スポーツ大会に出場し、メダルをとった生徒も現れました。また歩行ができるようになった生徒、そして体育の日を楽しみに待っていてくれる生徒が現れました。生徒たちと笑い合えたこと、また他愛もないやりとりが大きな宝物となりました。

さらに余暇の時間を利用した活動もおこないました。週に一度の「日本語教室」の開催、施設の親子を対象とした「おやこ体操」の実施、そして地域の人を対象とした「日本まつり」の開催と、日本人の私だからできる活動を、自分のできる範囲でおこなってきました。

最後にたくさん学んで、たくさん愛し、愛された2年間。紙面の都合上、書き足りないことはたくさんありますが、本当に幸せな2年間でした。全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。



▲町のようす



▲体育のようす



▲スポーツ大会(筆者左)



▲スポーツ大会



▲ソーラン節

茨木市国際親善都市協会交流委員会の紹介

協会では、昨年まで、ミネアポリス市委員会、安慶市委員会、小豆島町委員会それぞれ事業の企画・立案をしておりましたが、平成22年度に発足した交流委員会は、これら3委員会をはじめ「国際交流の集い」並びに「茨木カンツリー青少年助成事業基金」委員会を統合し、多角的な事業展開の推進役を担っています。



(社)茨木カンツリー倶楽部青少年国際交流助成事業基金

当基金では、茨木市国際親善都市協会が主催・共催又は後援する事業や国外でのスポーツ・文化交流に参加する市内の青少年（満24歳以下）または青少年団体などに助成をしております。

◎平成22年度の主な助成事業

<p>The3rd Annual NATIONAL CHEERLEADING 大会2010 平成22年4月25日にインドネシアのジャカルタで開催された世界大会、Annual NATIONAL CHEERLEADING 大会2010に梅花女子大学チアリーディング部が出場し、みごと優勝されました！</p>	<p>小豆島オリーブ杯小学生バレーボール大会 平成22年10月23日～24日にかけて茨木市と姉妹友好都市である小豆島で第9回小豆島オリーブ杯小学生バレーボール大会が開催され、茨木郡バレーボールクラブ・太田ジュニアバレーボールクラブ・玉櫛スポーツ少年団バレー部が出場しました。</p>
<p>英語学習ツアー派遣 平成22年7月7日～23日にかけてミネアポリスの生活を体験し、英語を学習することを目的に、英語学習ツアーを派遣しました。</p>	<p>英語スピーチ大会 平成22年11月3日に、福祉文化会館5階文化ホールで第27回茨木市国際親善都市協会英語スピーチ大会を開催しました。</p>
<p>ミネアポリス市への市民訪問団派遣 平成22年7月16日～23日にかけて、茨木市・ミネアポリス市姉妹都市提携30周年を記念して市民訪問団を派遣しました。</p>	<p>絵画・書の交換 茨木市内幼稚園・小学校・中学校の子供達の絵画や書を、姉妹都市・アメリカ合衆国ミネアポリス市、友好都市・中華人民共和国安慶市、国内姉妹都市・小豆島町に送付しました。</p>
<p>ラボ国際交流事業 平成22年7月21日～8月24日にかけて、7人がアメリカ、1人がカナダ、1人がニュージーランドへ行き、それぞれがホームステイをしました。</p>	<p>府立福井高校のミネソタ州（アームストロング高校）派遣プログラム 平成23年3月20日～29日にかけて福井高校の生徒8人がミネソタ州にあるアームストロング高校を訪問し、現地高校生との交流やホームステイを体験、旅の後半にはミネアポリス市へも訪れました。</p>
<p>小豆島町中学生リーダーキャンプ 平成22年8月16日～21日にかけて姉妹都市である小豆島町の中学生が茨木市青少年野外活動センターで、茨木市の中学生とキャンプ交流をしました。</p>	<p>府立春日丘高校のミネアポリス市（サウスウエスト高校）派遣プログラム 平成23年3月25日～4月2日にかけて春日丘高校の生徒12人が茨木市の姉妹都市であるミネアポリス市サウスウエスト高校を訪問し、現地高校生との交流やホームステイを体験しました。</p>

市からのお知らせ information

JICA 地方自治体行政研修員 12人が表敬訪問!!

平成23年1月21日（金）にケニア・ザンビア・タンザニアから12人の JICA 地方自治体行政研修員が表敬訪問に来られ、挨拶が終わると次々と市長に質問をしていました。研修員は1月10日（祝）に来日し、茨木市役所での研修など、多忙な研修日程を終え2月25日（金）以降随時帰国の途に就かれました。



▲JICA自治体行政研修員

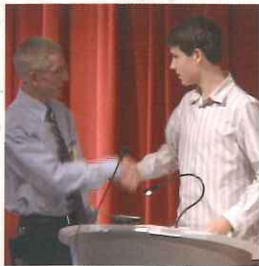
安慶市海外研修生の3人が表敬訪問しました。

平成23年2月23日（水）に安慶市の海外研修生、郭萌（かくほう）さん、伍先志（ごせんし）さん、陈天壮（ちんてんそう）さんが表敬訪問されました。滞在中は日本語の習得はもちろん、日本のことについて熱心に学ばれました。



▲安慶市研修生

英語俳句コンテスト入賞作品決定!!



英語俳句 109 句の今回のテーマは、今年の宮中のお題「葉」からとられています。今年の俳句は、「葉」というテーマに沿って自然をよく観察し、自然と人生の営みを重ね合わせた優れた作品が多く出句されました。年齢を超えて、素直に自然を捉え、真面目に人生に向かっているいい作品がありました。今年は優れた作品が多く、選句も悩んだほどです。ミネアポリスー茨木市の俳句交流はアメリカにおける英語俳句普及に大きな道を作っています。

評価の基準として、イメージの明確なもの、できるだけ新しい見方、英語語彙の使い方の巧みさ、音の使い方などを考慮し、詩的感性の豊かな作品を選びました。

翻訳・講評：吉村侑久代
(岐阜保健短期大学教授・日本英詩協会会長)

幼稚園・小学校の部

作者：Piper D'Emauele

Fall in the forest
Leaves falling from every tree
Like rain in the spring

秋の森
木々から木の葉が落ちる
春の雨のように

中学生の部

作者：Thomas Tang

Like a crimson stream
Leaves trickle down from their perch
Like birds taking wing!

赤い色をした水の流れるように
葉が枝から落ちる
まるで鳥の翼のように

高校生の部

作者：Emily Brunmeier

Dipping down to drink
Willow tree beside a lake
Little leaves rejoice

水を飲もうと
湖のそばの柳が水に浸っている
小さな葉が喜んでいる

成人の部

作者：Jackie Baker

Cat romps in the yard
Chasing a fallen red leaf
Lifted by a breeze

猫が庭を跳ねまわっている
風に乗って舞い上がる
赤い落ち葉を追いかけて



▲俳句受賞発表会

実用日本語学習会 多文化共生プログラム

当会の活動の一環として「多文化共生教室」への参加があります。市内の小・中・高校からの要請があり、在住する外国人の生の声を通じ、異文化の扉をノックする役割を担っています。教室に参加した、谷口ナムカーンさんの感想文を紹介します。

「国際理解教室に参加して」

谷口ナムカーン (タイ)

私は日本に住んで3年5カ月になりました。今まで、5、6回国際理解教室に参加しました。

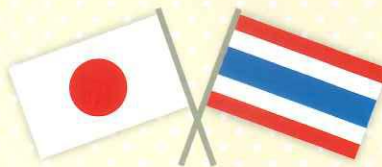
私が行ったそれぞれの学校で、私の国「タイ」のあいさつや、お金、スポーツそして料理について子供たちに話しました。タイの「タクロー」という籐でできたボールがあります。その「タクロー」を子供たちに紹介して、遊び方を教えました。

初めてなのに、私よりも上手に「タクロー」を扱うのでびっくりしました。

また国際理解教室では、子供たちが私の国タイについていろんなことを質問します。

たとえば、「タイの主食は何ですか」、「タイの国旗の赤、白、青色の意味はなんですか」と聞かれました。タイの主食は日本と同じお米です。そして国旗の色、赤は国の色、白は宗教の色、青は王さまを表す色だと答えました。

日本の子供たちと楽しくお話できることをたいへんうれしく思います。



ミネアポリス市英語学習・生活体験ツアー

参加者募集!!

今夏、ミネアポリス市への英語学習ツアーを結成します。ツアーの日程は姉妹都市デーへの参加や、水上祭トーチパレードなど盛りだくさんです。この機会にぜひCity of Lakes(湖の街)ミネアポリス市を体験して下さい♪

- 滞在期間 平成23年7月7日(木)～7月22日(金)16日間
- 対象 18歳以上の協会会員および市民
- 渡航費用 約26万円(予定)
- 募集人員 10人(応募者多数の場合は抽選)
- 内容 ミネソタ英語センターの教師からの講義、市内見学、実地活動などで英語を学習
- 申し込み 協会事務局へ申込書を提出



▲昨年の様子(姉妹都市デー)



▲昨年の様子(Bell of Two friendsの前で)

※説明会を5月17日、午後5時～6時まで市役所南館8階国際交流サロンで開催します。

市が小豆島町宿泊施設利用者に補助

姉妹都市小豆島町との交流促進を図るため、小豆島町の指定宿泊施設を利用する市民の皆さんに、市が宿泊費用の一部を補助する制度があります。

補助額 ・中学生以上(1泊)2,000円 ・小学生(1泊)1,500円
1人につき年間(4月～翌年3月)1泊分/申請書の提出は宿泊日の10日前まで

詳しくは、市民活動推進課へお問合せ、又は茨木市ホームページの「各課のご案内」から市民活動推進課のページをご覧ください。

【宿泊補助ホームページ】
<http://www.city.ibaraki.osaka.jp/kikou/shiminkatsudo/13159/index.html>

Let's learn Japanese together! 実用日本語学習会

「実用日本語学習会」では、日本語を母語としない方を対象に、マンツーマンで日本語学習の支援を行っております。また、学習支援者も同時に募集していますので、興味のある方は、ぜひ一度見学に来てください!

- とき▶《Thursday Class》
1:30～3:00p.m.
《Friday Class》
10:00～11:30a.m.
- ところ▶8th Floor at City Hall Annex
- ひょう▶1,500円(テキスト代は実費)
※木・金曜の両方に参加の場合は、3,000円
- れんらく▶TEL 080-6178-6312
(代表: 廣原知津子さん)
- 【ホームページ】<http://pjci.infoseek.ne.jp/>

国際親善都市協会 会員募集!!

本協会では、姉妹・友好都市をはじめ、国際交流に興味を持っておられる方々の入会をお待ちしています。会員には、年2回発行する協会報の送付や、協会が催す交流行事のご案内をいたします。

- 主な活動内容**
- ・国際交流の集い
 - ・市民とJICA 研修員との「ふれあい交流」
 - ・姉妹・友好都市への市民親善訪問団
 - ・中・高校生の「英語スピーチ大会」など

- 年会費▶個人会員(一般) 2,000円
(学生) 1,000円
- 申込先▶茨木市国際親善都市協会事務局

Ibaraki Intercultural Network (IIN) 姉妹都市活動室

姉妹都市活動室では、ミネアポリス市との交流を支えるための英語力や国際感覚の向上、異文化理解のため、ゲストスピーカーの英語によるスピーチを聞いたり、ディスカッション等を行っています。また、JICA研修員、阪大留学生や茨木市近隣に在住の外国人との交流を楽しんでいます。興味のある方は、気軽に見学に来てください。

- 例会▶第1木曜日午前9時30分～11時30分
第3土曜日午後2時～4時
- 場所▶クリエイトセンター
※協会事務局へお問合せください。
- 資格▶茨木市国際親善都市協会会員
- 年会費▶正会員:2,000円(18歳以上)
準会員:1,000円(中・高校生)
- 【ホームページ】
<http://www.zd.em-net.ne.jp/iin/>

We Are Friends!

青少年活動室スタッフ募集

英語でクッキング、ショッピング、ハロウィン、クリスマスなど、毎回テーマに沿って講師の久徳ウェンディー先生と一緒に英語に親しむ「We Are Friends !」は、原則4・5・7・9・10・12・2月の第3日曜日(10月は最終日曜日)にクリエイトセンターで行なっています。

- 対象 協会会員、協会会員になってくれる方
- 連絡 茨木市国際親善都市協会事務局



▲ハロウィンパーティー



▲クリスマスクラフトの様子